令和8年11月
丹波篠山市立篠山中学校

令和8年度丹波篠山市学力・生活習慣状況調査および、全国学力・学習状況調査の結果の概要

丹波篠山市学力・生活習慣状況調査および全国学力・学習状況調査は、各教育委員会や各学校が児童生徒の学力や学習状況を把握し、学習指導や生活指導の改善等に役立てることを目的として実施されています。

以下に、今回の調査についての本校の分析結果をまとめました。この調査によって測定できるのは学力の特定の一部分であることや、学校における教育活動の一側面に過ぎないことを踏まえつつ、保護者・地域の皆様の理解と協力のもとに適切に連携を図りながら一層の指導上の工夫・改善に努めます。これからも本校の教育活動に対してご支援いただければ幸いです。

調査について

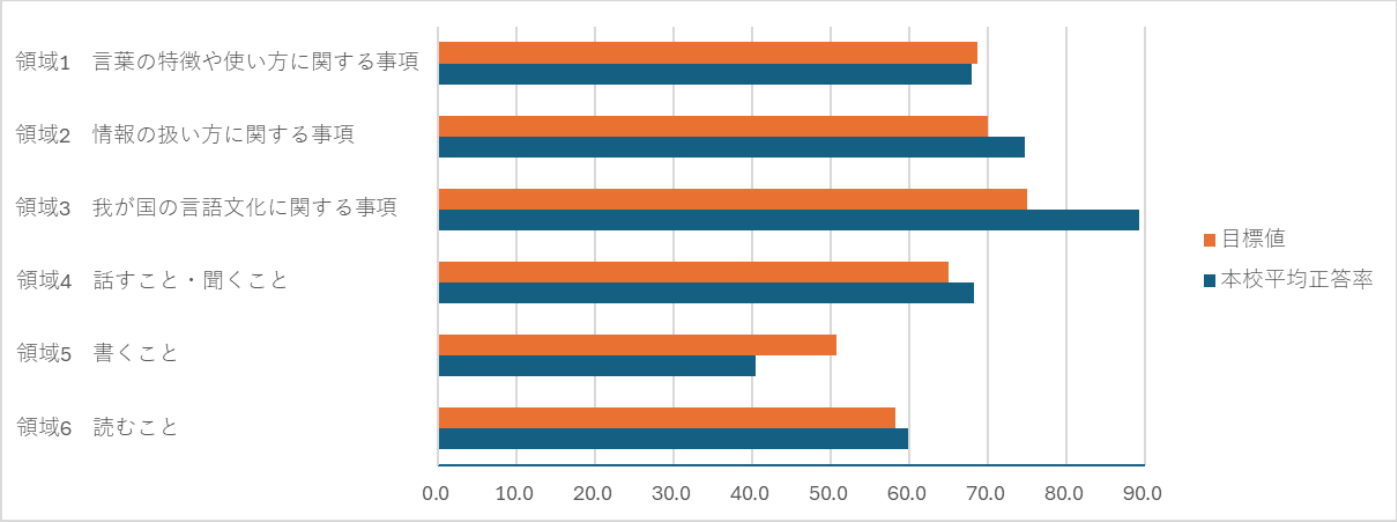
〇丹波篠山市学力調査
- ・実施日　令和8年4月23日（木）
- ・対象学年　1年生・2年生
- ・調査教科　国語、数学（算数）
  ＊1年生は小学校までの学習内容
  2年生は中1までの学習内容

〇全国学力・学習状況調査
- ・実施日　令和8年4月23日（木），28日（火）
- ・対象学年　3年生
- ・調査教科　国語、数学、英語（23日）
  英語（話すこと）（28日）
  ＊中2までの学習内容　英語は CBT 調査
  生徒質問紙調査

〇丹波篠山市生活習慣状況調査
- ・実施日　令和8年 5 月（日時はクラスにより異なる）
- ・本校対象学年　全学年

第 1 学年

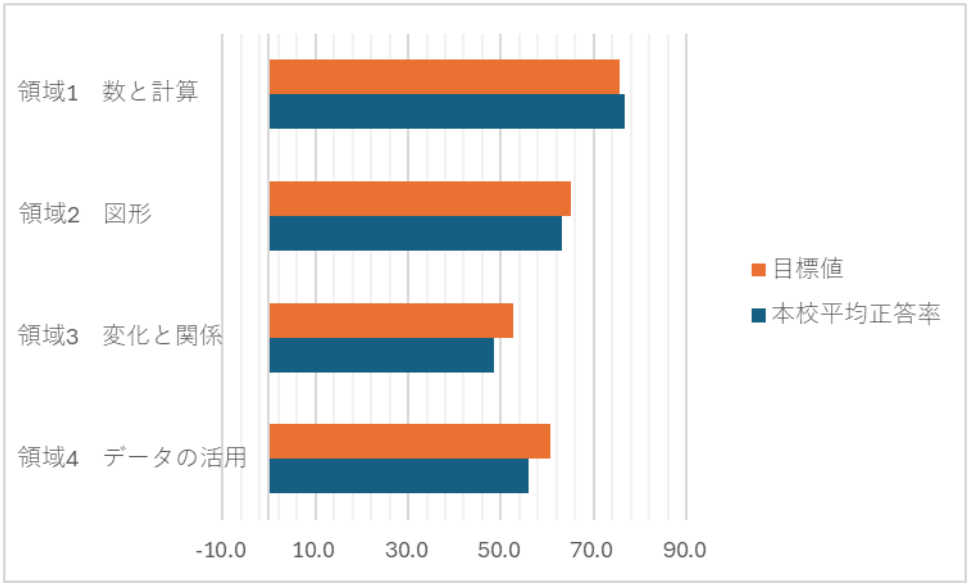
〈国語〉



領域1：言葉の特徴や使い方に関する事項
領域2：情報の扱い方に関する事項
領域3：我が国の言語文化に関する事項
領域4：話すこと・聞くこと
領域5：書くこと
領域6：読むこと

全体として基礎的な学力や知識面での学習基盤は十分に定着しています。特に「言葉の特徴や使い方に関する事項」「読むこと」「話すこと・聞くこと」の領域では、目標値を上回る高い成果をあげており、情報を整理する力や安定した聴力・読解力が身についています。一方で、「書くこと」においては目標値に届かず、目的に応じた適切な表現や文章全体の構成・展開を考える点に課題が見られます。今後は、読解力や聞き取りの力を生かしつつ、スモールステップで「書くこと」への抵抗感を軽減しながら、書く・表現する機会を積極的に設けて総合的な国語力の向上を図っていきます。

〈数学（算数）〉

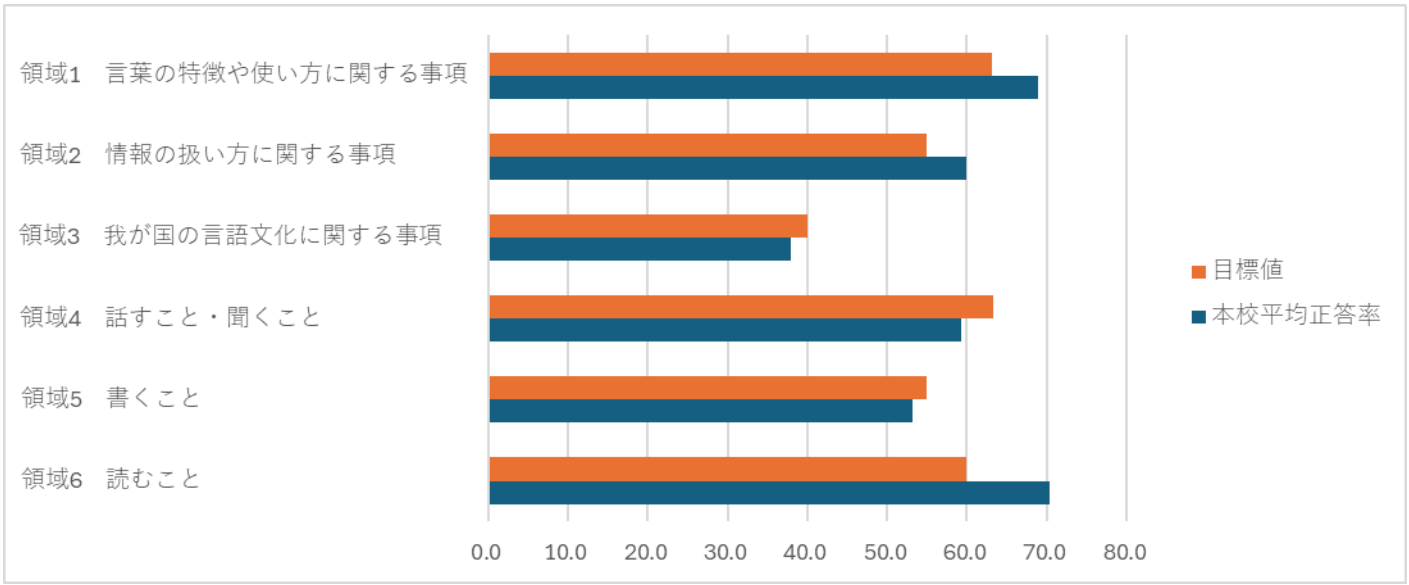


領域1：数と計算　　領域2：図形
領域3：変化と関係　　領域4：データの活用

「数と計算」の領域を中心に基礎的な知識や計算技能の定着が見られます。一方で、「変化と関係」や「データの活用」の領域においては、数量関係の読み取りや数学的な考察・説明、統計的思考に課題が見られます。多くの生徒が数学に対して苦手意識を抱いている現状を踏まえ、強みである計算力を基盤に、表やグラフの相互関連付けや理由を説明する活動、実生活に即した課題解決学習を取り入れていきます。さらに ICT を活用した個別最適な学びと協働的な学びの推進、少人数指導によるきめ細かな指導を通して、数学的な見方・考え方と思考・判断・表現力の育成を図っていきます。

第2学年

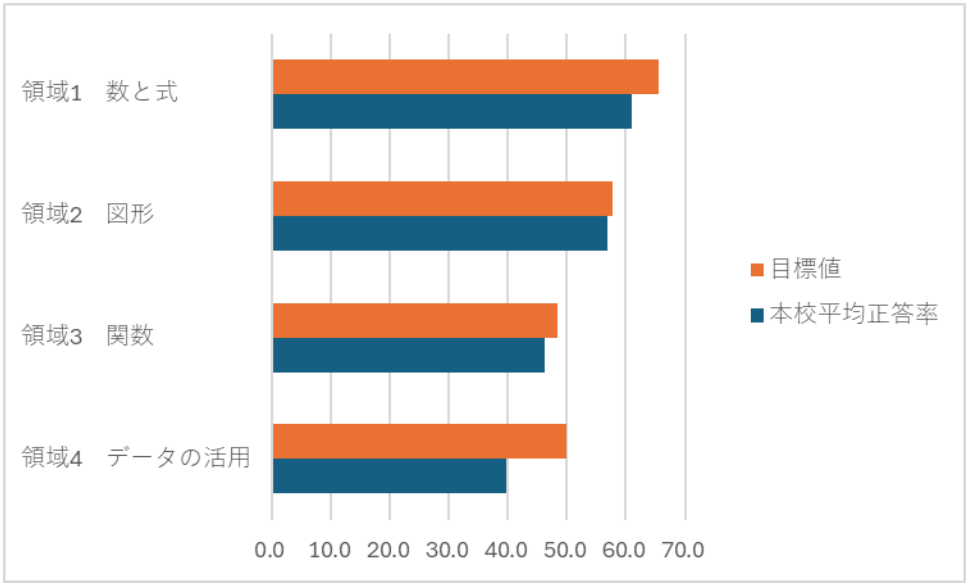
〈国語〉



領域1：言葉の特徴や使い方に関する事項　　領域2：情報の扱い方に関する事項
領域3：我が国の言語文化に関する事項　　領域4：話すこと・聞くこと
領域5：書くこと　　領域6：読むこと

前年度よりも平均正答率が上がり、目標値を上回る結果でした。特に「読むこと」をはじめ「言葉の特徴や使い方」「情報の扱い方」などの領域で高い成果が見られ、読解力や基礎的知識・情報処理能力の定着が見られます。一方で、「話すこと・聞くこと」「我が国の言語文化」および「書くこと」の領域においては課題が見られます。今後は、強みである情報処理力を土台として、対話やスピーチ、文章記述などのアウトプット活動を充実させるとともに、伝統的な言語文化への親しみや理解を深める指導を行い、総合的な国語力の向上を図っていきます。

〈数学〉



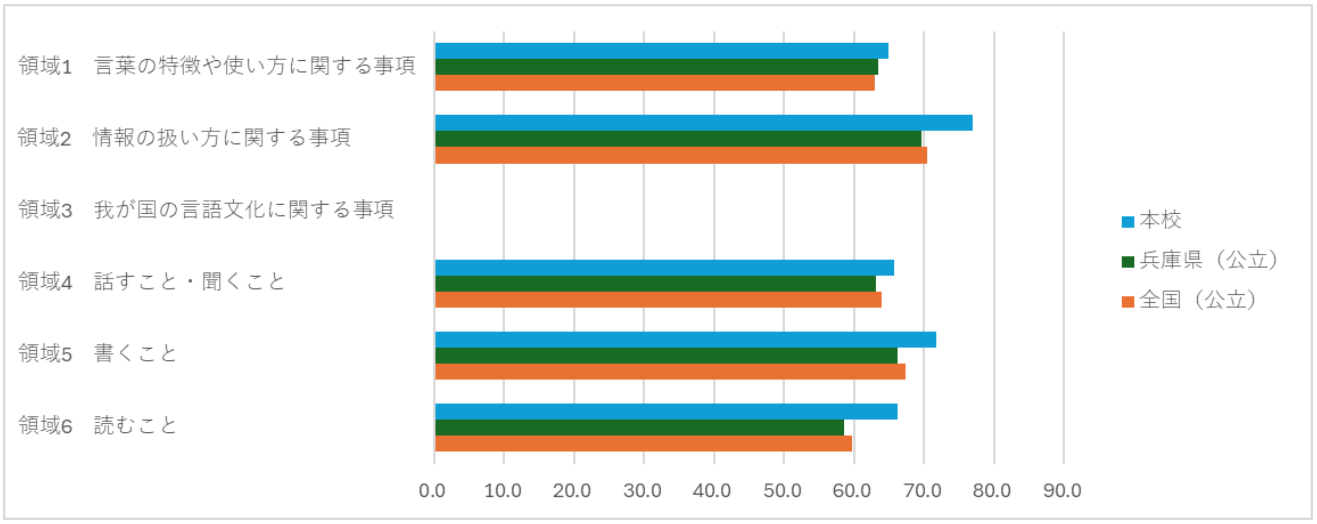
領域1：数と式　　領域2：図形

領域3：関数　　領域4：データの活用

「数と式」の正答率が最も高く、基礎的な計算力が定着しています。「図形」においても正答率が目標値に近づいており、確実に力をつけてきていると考えています。一方で、全体としては目標値を下回っており、特に「データの活用」や基本的な用語・方法などの「知識・技能」、関数の立式・グラフの作成、根拠や理由を説明する記述問題などに課題があります。今後は、継続的な計算練習による基礎の定着を図りつつ、ペア・グループ学習などを積極的に取り入れた対話的・説明的な活動を増やし、論理的な思考力や根拠をもって説明する力の育成を図っていきます。

第3学年

〈国語〉



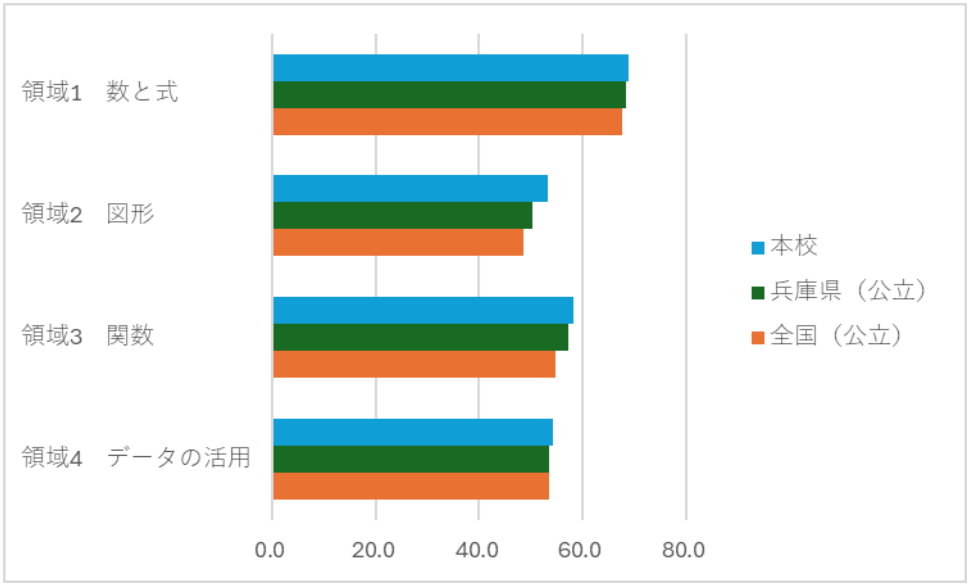
領域1：言葉の特徴や使い方に関する事項　　領域2：情報の扱い方に関する事項

領域3：我が国の言語文化に関する事項（該当問題なし）　　領域4：話すこと・聞くこと

領域5：書くこと　　領域6：読むこと

概ね全国平均と同等の正答率で、特に「思考・判断・表現」の観点や「読むこと」の領域で高い成果が見られます。また、学習意欲も高く、日頃の取組が定着につながっていると考えています。一方で、語句の文脈上の意味を把握する設問に弱さがあり、文章や言葉の正確な理解不足から「自分の言葉で表現する記述力」には引き続き課題が見られます。今後は生徒の高い学習意欲を生かし、文章中の言葉を知っている言葉に言い換える練習や与えられた条件に沿って正確に書く練習を積み重ねることで、自信をもって「書くこと」ができる力の育成を図っていきます。

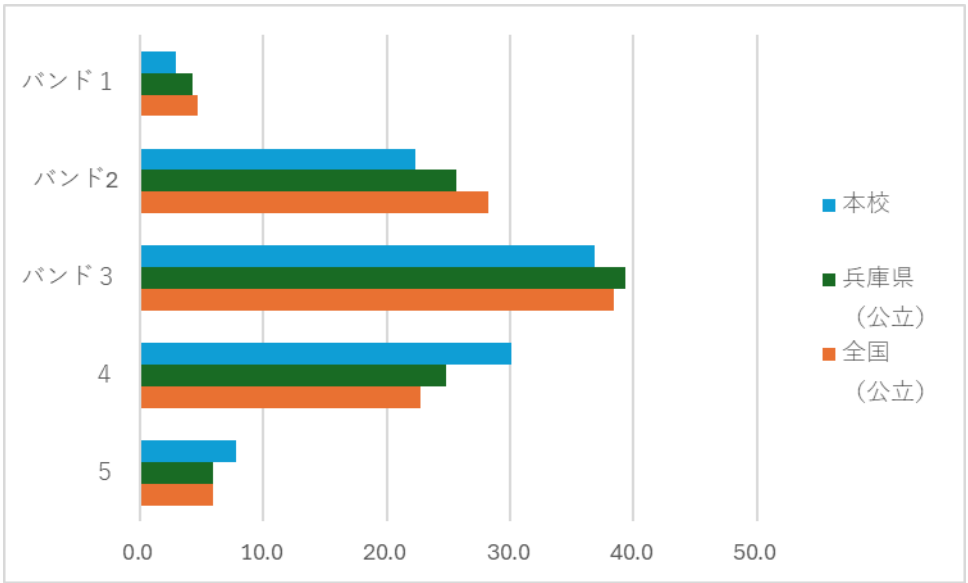
〈数学〉



領域1：数と式　　領域2：図形　　領域3：関数　　領域4：データの活用

全体として全国平均を上回っており、良好です。特に説明・証明の領域では、数学的な事象に対して根拠を示して筋道を立てて考え、論理的に説明する力が定着していると考えています。一方で「確率」分野においては、事象の起こりやすさを踏まえて条件を正しく整理する力や、既習事項を生かして最後まで粘り強く考え抜く姿勢に課題が見られます。今後は、確率分野の演習機会を増やすとともに「なぜそうなるのか」を言葉で説明する活動を継続し、根本的な概念理解を深めていきます。あわせて考えのプロセスを記述する活動を取り入れ、粘り強く問題解決に取り組む姿勢の育成を図ります。また、授業内での個別支援や補充学習を充実させ、全体的な数学力の向上を図っていきます。

〈英語〉



IRT スコアを 5 つに分けたバンドでの数値で、3が基準、5が最も高いバンドです。IRT スコアは問題の難易度を加味したスコアで、難易度が高い問題に正答した場合は高いスコア、難易度が低い問題に誤答した場合は低いスコアが算出されます。

全体として全国平均および県平均を上回っており、良好です。特に「聞くこと（リスニング）」や「読むこと・書くこと」といった領域において、基礎・基本が定着していると考えています。一方で聞き取った内容に即座に応答する「やり取り」や指定された条件のもと理由を添えて説明する「発表」、複合的な思考・表現を要する「話すこと（スピーキング）」をはじめとするアウトプット領域や、発信に対する積極性に課題が見られます。今後は、高い基礎力とまじめな学習態度を強みとして生かし、授業内での対話や発表の機会を幅広く取り入れることで発信力を高め、実践的な英語力の育成を図っていきます。

市生活習慣状況調査 ＊全国平均を50として結果を標準化しています。

〈第１学年〉



多くの項目で全国平均と同程度またはやや下回る結果となりましたが、「いじめのサイン」に関する設問では全国より良好であり、特に SNS 等での被害がないと答えた生徒が全国平均を大きく上回りました。友人関係が安定しており、集団としての力の強さや落ち着いた学習環境、高い人間関係構築力が発揮されています。

一方で、「自分にはいいところがある」と答えた生徒は全国平均を下回っており、自己肯定感の低さや自身の努力・成果に自信を持ちきれていない傾向が見られます。

今後は、達成感を得やすい小さな目標を設定し、「できたこと」や「頑張った過程」を認める指導を徹底します。さらに家庭とも連携を密にし、失敗を恐れずに挑戦できる環境を整えることで、生徒一人ひとりの自己肯定感の向上を図っていきます。

〈第2学年〉



多くの項目で概ね全国平均と同程度または上回る結果となりました。特に「今のクラスが好きか」や「先生の指示を守っているか」の設問では全国平均を大きく上回り、学級の強い絆や高い規範意識を示しています。大きなトラブルもなく、安心・安全で落ち着いた環境で学校生活を送れていると考えます。 一方で「学習習慣」に関する設問では前年度より低下しており、定期テスト等の学力定着度にも少し影響が出ています。また「他人と意見が違っても主張する」「他者の意見に質問する」といった「発信力」に課題が見られ、協働的な学びの深まりや学習意欲の維持・向上に課題を残しています。 今後は、「トライやる・ウィーク」での体験を踏まえた進路・キャリア教育を一層推進し、学習の意義や自身の将来を「自分事」として捉え直す機会を作っていきます。これにより学習への意欲・習慣の再構築を図るとともに、主体的・協働的な学びを通じた発信力の育成を図っていきます。

〈第3学年〉



多くの項目で全国平均と同程度または上回る成果が見られました。特に「学級の絆」「規範意識」「先生のささえ」の各指標は全国平均を上回っています。他者の多様性を認め合える人間関係をはじめ、高い規範意識や心理的安全性を持つ学級基盤が構築されていると考えています。

一方で、家庭における「学習習慣」については全国平均を大きく下回っており、授業の振り返りや既習事項の活用・定着に課題が見られます。

今後は、構築された良好な人間関係と学級の安心感を基盤とし、予習・復習の重要性や学びの楽しさを伝えていきます。あわせて、日々の学習が自身の進路選択へ直接つながっていることを意識づける指導を行い、家庭学習の習慣化と基礎学力の定着を図っていきます。

3 年生は全国学力・学習状況調査でも質問紙調査がありました。生活習慣に関する質問内容は市の調査とは若干異なりますが、その結果も市の調査に照らし合わせると概ね同じ結果でした。多くの項目で肯定的な評価が全国や兵庫県の平均を上回っています。全国の数値と比較して、「自分と違う意見について考えるのが楽しい」「学級では、人と違う意見を言っても否定されないと思う」「普段の生活の中で、幸せな気持ちになる」は高い値を示しています。さらに、「友人関係に満足している」「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」の高い値と合わせて、学校や学級において、お互いの個性を認め合う良好な人間関係が構築されていると考えています。

課題は、学校の時間以外の学習時間です。平日 2 時間以上学習する生徒は 12.8%（全国 30.1%）にとどまり、1 時間以上とあわせても 50.5%と、全国平均より約 10%下回っています。また、休日の学習時間も同様に全国平均を大きく下回る状況です。これらの結果は、「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」や「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思いますか」に関する設問と相関しており、家庭での振り返りや定着の時間が十分に確保できていないように感じられます。今後は、学校生活を通じて、授業の理解を深めるための事前準備（予習）の重要性を伝えていきます。あわせて、家庭学習が各自の進路実現につながっていることを具体的に提示し、基礎学力の定着や家庭学習の習慣化を目指していきます。

＊平日の学習時間については全国調査と市の調査では結果に少し差がありましたが、調査時期や質問方法等の違いもあるので、大まかな傾向としてご理解ください。

〔まとめにかえて〕

学力向上について

本校では「授業スタンダード」を定め、各教科等の見方・考え方について新しい気づきを生み出し、個と集団を思考が行き来する「主体的・対話的で深い学び」を進めています。特に目標と授業の流れを生徒と共有し、振り返りで学びを実感し、家庭学習において次の学習や他教科の学習、生活との関連に向かうよう取り組みを進めています。

今回の調査では、概ね目標値や全国平均と同程度の状況でしたが、苦手な分野や教科もあります。少しずつ学力の定着が進んでいる面も見られますので、今後も継続して指導をしていきます。自分の考えなどを記述したり、発信したりすることに課題が見られるので、それらの機会を増やすとともに各学年各教科の実態に応じて更に工夫した授業づくりを進めていきます。加えて ICT の活用や授業のユニバーサルデザイン化を一層進め、一人一人の力を更に伸ばしていけるように取り組んでいきます。

生活習慣等について

多くの項目で全国平均と同程度または上回る結果が見られました。日頃の学校生活で見られるように、規則正しく、落ち着いて前向きに生活ができている様子が結果にも表れていました。日頃より保護者の皆様や地域の皆様の温かい支えがあることに感謝いたします。

この現状を確かな礎として、様々な教育活動を通じて学校教育目標の「未来を切り拓く基礎力・思考力・実践力を持ち、支えあい学びあう生徒の育成」の実現に向け、今後も全力で取り組んでいきます。

一方で、家庭での学習時間が全国平均より短いことや、SNS やインターネットの利用、ゲームや動画の視聴時間が長い傾向にあることなどが課題としてあげられます。これらは互いに深く影響しあっていることもあると考えられます。使用方法によってはトラブルにつながる危険性が高まるだけでなく、基本的生活習慣や学習面にも好ましくない影響を及ぼす恐れがあると考えられます。学校におきましても、生徒自らが望ましい生活習慣を意識し、確立できるよう、継続して指導をしてまいります。保護者の皆様におかれましても、是非ご家庭でお子様と利用ルールや生活リズムについて話し合っていただき、より良い生活習慣の定着に向けてご協力をお願いいたします。